



核兵器廃絶の願い、ニューヨークへ届けます

核不拡散条約(NPT)再検討会議要請団 参加にあたって 久代安敏

鳥取県西部原水協理事長・田縁良樹先生の「久代、お前ニューヨークに行きてごさんか」の一言は、「今年は戦後60年、被爆60年。私も50歳になる節目の年にふさわしい運動を展開したい」という思いにスツと共鳴しました。
私にとって生まれて初めてのパスポート取得は、5月のニューヨーク行きとなりました。

国連で開催される核不拡散条約(NPT)再検討会議要請団の鳥取県代表として、新日本婦人の会・事務局長の田村真弓さんと私の二人が決まったからです。

「戦争も核兵器もない地球の実現のために」は、人類共通の願いであり、どうしても実現しなければなりません。

しかしいま、こうした世論や運動とは裏腹に、アメリカのブッシュ大統領は大儀なきイラク戦争に狂奔し、唯一の被爆国政府の小泉首相は、「国際貢献」という欺瞞に満ちた言葉でこれに喝采をおくっている。世界を舞台に繰り広げられるこんな茶番劇に決して市民は騙されぬ。

少年のころ、「雨の日には放射能が降るから帽子を被れ」と言われて育った私にできることは、広島や長崎やビキニ環礁での被爆の惨禍を繰り返し返させないことと同時に、核兵器廃絶の「明確な約束」をただちに実行するよう核保有国政府に働きかける運動に参加することです。

そしてあなたにできることは、新たな核保有の動きがあるなかで、5年ごとに開かれる今回のNPT再検討会議が、世界史の新しいページになるように「被爆60周年国際署名・いま、核兵器の廃絶を」の署名活動にご協力いただくことです。

核兵器のない平和な地球へのパスポートは、いつでもだれでも取得できるのですから。

日野の宮沢賢治・久代安敏氏のこと

鳥取県西部原水協
理事長 田縁良樹

久代氏は私の若い友人で最も尊敬する人の1人である。氏が高校生の頃、根雨高校は高校劇が盛んで、県内の高校演劇界を席卷していた。そのリーダー的存在が氏だった。上演作品の多くは鋭く社会問題に迫ったもので、シリアスだが、どこか土の臭いがした。私の勤務校とは違っていたが、私は氏の才能と存在に密かに刮目していた。

高校卒業の時、郷土日南町を愛する詩の朗読は新鮮で、出席者を痛く感動させ今でも語り草になっている。そして、そのエネルギーは自作自演のフォークソングや、氏が立ち上げた演劇グループ「劇団あざみ」となり、一昨年の米子コンベンションセンターでの日南町町民ミュージカル「そばの花」となって結実した。神戸の少年少女を招き、集団疎開をテーマにしたものだった。戦争と郷土愛が根づいた彼の生涯のテーマがそこにあった。日野の宮沢賢治と呼ばれるゆえんである。

氏が運動として「平和」にかかわったのは沖縄返還運動の中から、全国的に広がった「暁の大合唱」を日野の地で組織した頃だったろう。あの過疎の地でコツコツと山中の部落を訪れ、反核署名を集めた「キツキ原水協」の組織者になった。一昨年ら日野川筋の平和行進を復活させたのも氏だった。生来のオルガナイザーだ。ただの者ではない。

現在49歳、日南町町議として2期目を務めている。今回なされる氏のニューヨークでの活動は、氏自身と地域原水協に豊かな実りを確かなものにするだろう。

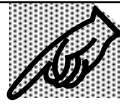
(元教員)

NPT再検討会議・国連派遣実行委員会
689-8790 米子市尾高町90-2
原水爆禁止鳥取県西部協議会
0859-32-4863

くしろやすとし プロフィール

- 1955年 日野郡日南町の農家生まれで、今も農家の49歳。
- 1974年 根雨高校卒業後、1999年まで25年間日南町の農協に勤務。
- 1975年 原水爆禁止日南町協議会を設立し、核兵器禁止の署名運動に取り組む。
- 1999年 日南町議会議員となり、現在2期目。
- 2003年 夏の平和行進、「日野川コース」を始める。
- 2005年 ニューヨークの国連本部で開催の核不拡散条約(NPT)再検討会議の原水協要請団・鳥取県代表に決定。

母・長男夫婦・孫2人の6人家族。
趣味で劇作や演劇活動をつづける。好きな劇作家は、井上ひさしと平田オリザ。



NPT再検討会議 核不拡散条約(NPT)の運用を点検するため、1975年から5年ごとに開かれている会議。NPTは1970年発効。189カ国が加盟。米英仏口中の5カ国の核兵器保有を認める一方、他国の核保有を禁止しています。2000年に開かれた前回の再検討会議では、米国を含むすべての核保有国が「核兵器の完全な廃絶を達成」する「明確な誓約」をし、第6条の核保有国の軍縮義務を強化しました。5月2日からニューヨークの国連本部で開催されます。